

FaSet シリーズ構築と導入効果

Efficiencies of FaSet Series Installation to Oracle Applications Environment

北方 裕 人

要 約 FaSet シリーズは、Oracle Applications のモジュールを使用して、国内ユーザのビジネス環境に合わせ、システムを短期間に効率良く立ち上げることを目的に、1997 年から開発されてきた。現在、FaSet シリーズは、統合会計システム系の 4 モジュールと、人事管理システム系の 5 モジュールの全 9 モジュールを提供している。FaSet シリーズは、Oracle Applications の補完商品として、ユーザが行う業務の標準機能の提供、法改訂時の保守サービス、および、Oracle Applications の短期間の導入と工数削減に大きく貢献する。本稿では、FaSet シリーズの機能概要と技術的特徴および導入効果を記述した。

Abstract FaSet Series has been developed based upon the modules in Oracle Applications since 1997. The objective of FaSet Series is the effective short term installation tailored to the requirements of the business environments of domestic users. Currently, FaSet Series consists of nine modules; four of nine are for the integrated accounting system (Oracle Financials) and five for the personnel management system (Oracle Human Resources).

FaSet Series is positioned as the complementary products of Oracle Applications, and remarkably contributes to the provision of standard features by means of which users perform system setups, the maintenance support for the amendment of laws and regulations, and the reduction of the period of time and the manpower required for installing Oracle Applications.

This paper discusses the functional overview, the technical characteristics and the effectiveness of the installation of FaSet Series.

1. はじめに

ERP パッケージである Oracle Applications は、オラクル社が自社の持つデータベース、ツールなどのテクノロジーを統合して開発した基幹業務向けの統合ソリューション・パッケージである。Oracle Applications は七つの製品カテゴリ、50 以上のモジュール群から構成されており、企業活動のフロント・オフィス機能といわれる営業活動から人事・会計・サプライチェーン・製造といったバックオフィス機能までカバーし、モジュール群はシームレスに統合されている。

この Oracle Applications のモジュールを使用して、ユーザのビジネス環境に合わせて短期間に効率良く立ち上げるために、日本ユニシス（以下、当社）では、1997 年からその補完商品として「FaSet (Fast Setup) シリーズ」を開発してきている。FaSet シリーズは、現在、統合会計システム系の 4 モジュールと、人事管理システム系の 5 モジュールの全 9 モジュールから構成されている。

本稿では、FaSet シリーズの導入と効果について記述した。2 章、3 章では、FaSet シリーズ開発の背景と目的、4 章では、モジュール構成、5 章、6 章では、FaSet の技術的特徴と導入効果を記述について述べる。

2. FaSet シリーズ開発の背景

1995年に、オラクル社が Oracle Applications の日本語版として「R 10.5 CUI」を発表してから、5年あまりが過ぎた。以後、「R 10.6」、「R 10.7」、「R 11」を経て2000年9月には、「E Business Suite 11i」が発表された。バージョンアップと同時に、サプライチェーン管理システム、CRM システム等のモジュールもリリースされた。さらに、課題であった日本語化対応や、日本の法律や会社の制度に適合したパッケージ化対応という点でも徐々に改善されつつある。

図1のように、Oracle Applications は、共通部分であるコア部、ユーザ独自の設定が可能なインプリメンテーション^{*1}部から構成されている。適用ユーザは、例えば、統合会計システム系では、会社コード、勘定科目、部門等を設定し、管理会計上の残高を把握するための会計キーフレックスフィールド^{*2}の各セグメント^{*3}を設定した後、会計帳簿を作成するというインプリメンテーションを行う必要がある。また、人事管理システム系では、人事組織や役職・職位の体系の設定・給与の支給項目・控除項目等を設定する必要がある。

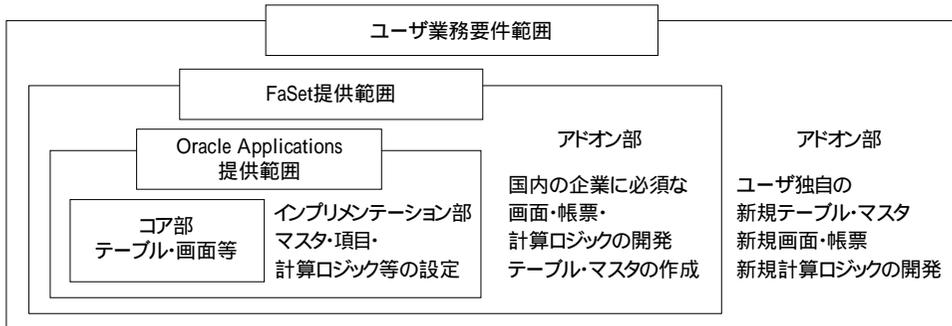


図1 ユーザの業務要件範囲と Oracle Applications, FaSet の関係

このような、(インプリメンテーション部の)設定を容易にするために Oracle Applications に対して日本の企業の標準的なビジネスモデルのインプリメンテーションを行なったテンプレートが必要であると考え、FaSet シリーズを開発した。さらに、Oracle Applications のコア部、インプリメンテーション部では対応できない機能については、これらをモデルとして提供した。

また、Oracle Applications がどのくらいユーザの業務要件にフィットしているのかを分析するために CRP^{*4}を行うが、FaSet シリーズを雛型として使用することにより、CRP を行なうためのインプリの工数・期間を短縮することが可能である。

Oracle Applications を適用する場合には、データ移行や外部データとのインタフェースは必須である。しかし、一部保守サポート対象外のツールはあるものの、現時点の Oracle Applications のモジュールには存在しない。その結果、各ユーザは、それぞれ独自に追加開発を行っているケースが多い。したがって、どのユーザでも共通にデータ移行や外部データとのインタフェースをスムーズに行うようにサポートするモジュールが必要であると考え、これら各種ツール群を FaSet シリーズとして開発

した。

3. FaSet シリーズ開発の目的

FaSet シリーズ開発の大きな目的は、日本の企業に適用可能な標準ビジネスモデルの提供を行なうことによって、短期間での導入および確実な実装を実現することである。当社が、Oracle Applications 適用以前から行ってきたユーザへの業務パッケージ提供や、システム開発の経験を通じて蓄積してきた業務ノウハウを、Oracle Applications と組合せて業種・業態のモデル、入力画面・帳票群を提供することにより、短期導入・工数削減を図ることを目的としている。開発にあたっては、Oracle Applications との親和性を重視し、Oracle Applications と共通の Look & Feel を提供している。さらに、法改訂が行なわれた場合の迅速なサービス、および導入後の顧客ビジネス・スタイルの変化に柔軟に対応する最新 IT 基盤を提供している。Oracle Applications 自体も「R 10.5」の時代には、CUI 対応版であったが、次第に GUI 対応版に変化し、「R 10.7」のころから、クライアントサーバ型のスマートクライアント (SC) からネットワークコンピューティングアーキテクチャ (NCA) に対応している。今ではインターネットの技術は必要不可欠となっており、最新技術を取り入れた基幹系情報基盤としての Oracle Applications への期待は大きい。ユーザのビジネス・スタイルの変化に対応し、最新の Oracle Applications と連携した形で常に新しい FaSet シリーズ利用環境を継続して提供し、ユーザ・メリットを享受いただくことも目的の一つとなっている。

4. FaSet シリーズの体系

FaSet シリーズのモジュール構成を図 2 に示す。

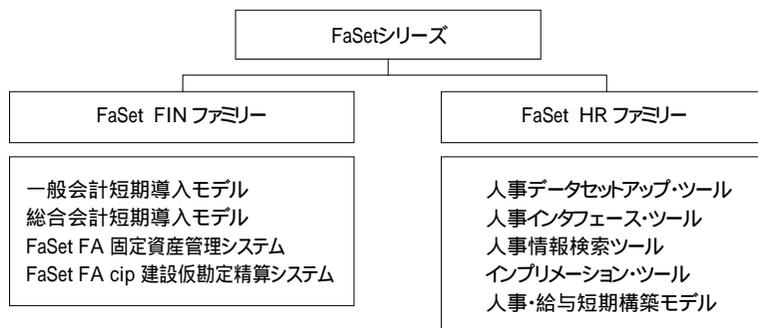


図 2 FaSet シリーズのモジュール構成

4.1 FaSet FIN ファミリー

FaSet FIN ファミリーは、Oracle Applications の一般会計モジュール (GL: General Ledger)、買掛金モジュール (AP: Account Payables)、売掛金モジュール (AR: Account Receivables)、固定資産モジュール (FA: Fixed Assets) の補完商品である。以下に概要を記述する。

1) FaSet Financial 一般会計短期導入モデル

Oracle Applications の GL モジュールと連携した短期導入モデルである。さまざまな業種・業態にそのまま対応できる会計キーフレックスフィールドを提供する。会計キーフレックスフィールドについては予備セグメントを三つ用意しているので各企業の残高管理の体系に柔軟に対応する。また、より操作性にすぐれた新仕訳入力画面と、日本の企業会計に求められる標準的な出力帳票を提供する。このモデルをそのまま業務運用に使用することもできるし、CRP の雛型として使用することも可能である。

2) FaSet Financial EXT 統合会計短期導入モデル

Oracle Applications の GL ,AP ,AR モジュールと連携した短期導入モデルである。一般会計短期導入モデルの機能に加えて、買掛金・売掛金業務において使用する請求書の入力画面と、未払残高明細書・支払予定明細書・未収金入金予定表等、日本の企業に求められる標準的な出力帳票を提供する。

3) FaSet FA 固定資産管理システム

日本の商習慣に対応し、Oracle Applications との親和性を重視した固定資産システムである。FaSet FA は、資産情報管理、財務情報管理、会計情報管理の三つの機能を提供する。

資産情報管理は、固定資産台帳・変動履歴の管理・照会を行う。財務情報管理は、定額法/定率法による減価償却計算・償却資産税用計算を行う。また償却シミュレーションも可能である。会計情報管理では、一般会計モジュールに仕訳を転送するしくみを提供する。FaSet FA は、Oracle Applications の CAI(Cooperative Applications Initiative : オラクル社認定の Oracle Applications 補完商品) 商品に認定されている。

4) FaSet FA cip 建設仮勘定精算システム

FaSet FA の追加商品として開発した、建設仮勘定の精算業務をサポートするパッケージである。工事終了後に、Oracle Applications AP モジュール、または Oracle Applications GL モジュールで管理している建設仮勘定を資産と費用に振替えて、Oracle Applications GL モジュールに仕訳転送を行う。資産については、FaSet FA に転送し固定資産管理業務を行なう。建設工事で建設仮勘定で管理する場合だけでなく、資産を取得する場合、仮の勘定として、AP モジュールまたは GL モジュールに建設仮勘定という勘定科目を立てる場合がある。その勘定科目の振替にも使用可能である。

4.2 FaSet HR ファミリー

FaSet HR ファミリーは Oracle Applications の人事情報管理モジュール (HR : Human Resource) , 給与計算管理モジュール (PAY : Payroll) を補完するモデルとツール群である。以下に概要を記述する。

1) FaSet HR 人事データ・セットアップ・ツール

Oracle Applications HR モジュールのコア部のデータ移行をサポートするツールである。現行システムのデータを Oracle Applications に移行することを目的に作成した。ユーザで用意した TXT 形式のファイル/データを SQL * LOADER

で中間テーブルに取り込み、オラクル社が標準機能として提供している API (Application Program Interface) を用いて、テーブルに格納する。初期のデータ移行に利用可能であるが、新入社員の一括データ登録など、本番以降の業務にも汎用的に利用可能である。

2) FaSet HR 人事インタフェース・ツール

外部システムのデータと Oracle Applications のデータの送受信業務をサポートする目的で作成したツールである。ユーザ独自のフォーマットによる外部データのファイル識別定義、ファイルレイアウト定義、実テーブル対応定義等を設定し、Oracle Applications のデータとの送受信を可能とする。生命保険会社の給与天引時の保険契約データの取り込み、給与計算結果を銀行へデータ転送する時のフォーマットの定義については、テンプレートを用意している。

3) FaSet HR 人事情報検索ツール

人事業務において、さまざまな条件に適合した人事情報を検索し、資料を作成するときに使用するツールである。人事情報検索ツールは、定型検索処理と汎用検索処理の二つに分けられる。定型検索処理は、定型項目の条件で検索した結果を Oracle Applications 画面上にフォルダ (表形式の画面) として表示するツールである。フォルダのデータは、Excel シートに転送することができるので二次加工が可能である。汎用検索処理は、オラクル社の意思決定支援ツールである Discoverer を用いて、Oracle Applications の全項目を対象に条件検索を行うので、非定型業務を行なう時に使用する。

4) FaSet HR インプリメンテーション・ツール

Oracle Applications HR モジュールのインプリメンテーションの工数削減を目的として作成したツールである。現状のインプリメンテーションは、各ステップごとに画面から手入力を行い、入力した内容を確認するときは、入力した画面上で確認しなければならないが、インプリメンテーション・ツールでは、入力したいデータを Excel シートに用意しておき、各ステップごとにオラクル社が標準機能として提供している ADE (Application Data Export) を用いて、Excel シートから Oracle Applications のテーブルにデータを格納する。格納したデータは、Excel にダウンロードすることも可能なので、インプリメンテーション内容を Excel 上で確認することができる。

5) FaSet HR 人事・給与短期構築モデル

当社が、Oracle Applications の人事給与とモジュールを実ユーザに適用したスタイルでビジネスモデルとして提供する。すでに、給与支給控除項目、計算ロジックは設定してあり、データがあれば稼働可能である。また、多数のフォルダ機能を追加開発しているので、データをエクスポートし、Excel シート上にデータを表示することも可能である。このように、人事・給与短期構築モデルは、Oracle Applications の標準機能にインプリメンテーションを加えて、さらに入力画面・フォルダ画面等を追加しているので、人事システム、給与システムについて、ユーザの要件が合えば、工数をかけずに、短期間で導入することが可能である。また、CRP を行う場合は、標準から CRP の準備を行うよりも、このモデルを使用

した方が CRP の準備の工数が削減されるので、このモデルの使用が最適である。

5. FaSet シリーズ開発における技術的特徴

FaSet シリーズの FIN ファミリー、HR ファミリーの代表的なモデル、ツールについて技術的特徴を記述する。

5.1 FaSet FIN ファミリーの技術的特徴

ここでは、FaSet FIN ファミリーのうち、一般会計短期導入モデルについて、技術的特徴として、会計キーフレックスフィールドの体系、帳票出力の仕組みについて詳しく説明する。

5.1.1 会計キーフレックスフィールドの標準系

Oracle Applications の会計キーフレックスフィールド（2章参照）は、ユーザ固有に設定するので、標準では何も設定されていない。どのユーザにも当てはめることができるのはメリットであるが、自由自在なゆえ、どのような設定が一番良いのか、なかなか決められない。総勘定元帳に残高を保持する単位が決まらなければ、そのユーザの統合会計情報の管理や出力する帳票が作成できない。当社では、Oracle Applications 適用以前に、従来から行ってきた 300 社以上のユーザへの会計パッケージの適用経験や蓄積してきた業務ノウハウを分析し、一般会計短期導入モデルの会計キーフレックスフィールドのセグメントと桁数を、図 3 のように標準化し、各セグメントに、それぞれ、MDL_Company, MDL_Account, MDL_Tax, MDL_CostCenter, MDL_Reserve 1, MDL_Reserve 2, MDL_Reserve 3 という値セット名^{*5}を設定した。この値セット名は、勘定科目、部門のマスタとしてリンクしていて、FaSet に直接組込まれているため変更できない。また、会計キーフレックスフィールドの体系を、会社コード・勘定科目・部門コードの 3 セグメントを使用する場合でも、他のセグメントにはダミー値を設定し、この体系を維持する必要がある。

会社コード	勘定科目	消費税区分	部門コード	予備 1	予備 2	予備 3
2 桁	9 桁	3 桁	8 桁	6 桁	8 桁	8 桁

図 3 一般会計短期導入モデルでの会計キーフレックスフィールド体系

Oracle Applications では、ユーザが会計業務で使用する帳票は全てアドオン開発しなければならない。それは、前述しているようにユーザによって会計キーフレックスフィールドの体系の設定が異なり、その結果、総勘定元帳に残高を保持する単位が決まらないために、帳票を作成できないからである。一般会計短期導入モデルでは、図 3 のように会計キーフレックスフィールドを標準的に決めたことにより、勘定科目、部門等ごとの残高把握が可能となり、その結果、表 1 に示すように、ユーザが会計業務で一般的に使用する標準帳票を提供することが可能となった。

5.1.2 FaSet FIN ファミリーの帳票の出力

FaSet FIN ファミリーで帳票を出力する仕組みを詳細に記述する。

出力する帳票の各明細の表示名称は、ユーザが任意に設定できるように、表示マス

表 1 FaSet シリーズで出力する GI, AP, AR 帳票一覧

【GL】

仕訳日記帳	出納帳	製造原価報告書
日計表	比較損益計算書	総勘定元帳
出納日報	比較貸借対照表	消費税区分別残高一覧表
合計残高試算表	損益計算書	消費税明細表
預金残高一覧	貸借対照表	部門別予算実績対比表
キャッシュフロー計算書	販売費・一般管理費明細表	

【AP】

未払残高明細書	請求入力チェックリスト	支払対象一覧表
未払予定明細書	請求書	給与・総合振込依頼書

【AR】

未収残高内訳表	請求入力チェックリスト	消し込みリスト
未収入金予定表	入金一覧表	未収金年齢調べ

タという機能を作成した。また、帳票を出力する場合、帳票名の情報、帳票出力画面から入力された情報、出力するプリンタの情報が必要だが、一般会計短期導入モデルでは、それらの情報は、Oracle Applications のシステム管理の機能である値セットを利用するように工夫している。帳票名の情報、帳票出力画面から入力された情報、出力プリンタ情報はそれぞれ MDL_Reports_Info, MDL_Parameter_Info, MDL_Printer_Info という値セット名で設定し、その付加フレックスフィールドにパラメタ情報を設定している。なお、値セット名は FaSet に組み込まれているので、変更できない。帳票を出力するために FaSet FIN ファミリーで考えた処理概要を図 4 に示す。

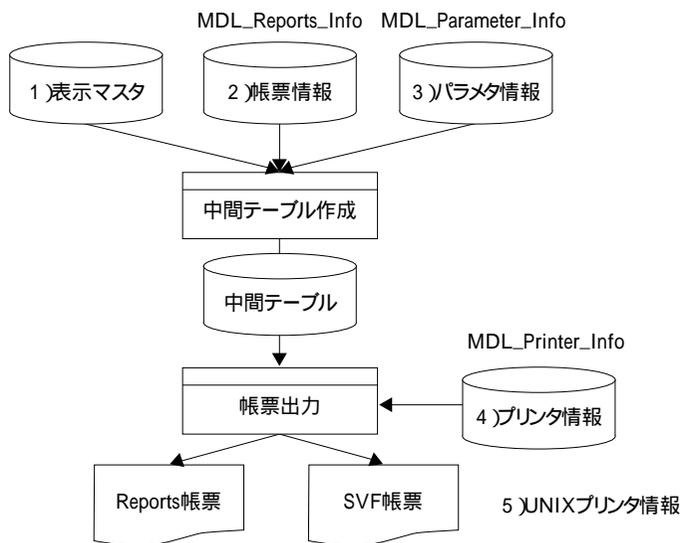


図 4 FaSet FIN ファミリーの帳票出力概念図

帳票名称 値セットから入力(固定)
左右区分 左詰はL, 右詰はRを入力
行番号 表示する行番号
出力名称 表示したい行見出しを入力
貸借区分 借方はD, 貸方はC
勘定科目 その行に表示したい勘定科目を From ~ To で入力
+ - 正負の表示
分母分子 構成比を計算する場合に使用
非表示 非表示の場合はチェックする
改ページ 改ページを行う
強調 行見出しを強調文字にする

図 5 表示マスタの設定画面

1) 表示マスタ

一般会計短期導入モデルで提供している帳票は、ユーザがインプリメンテーションするだけで、汎用的な帳票を出力できるように工夫している。ユーザによって管理している勘定科目の名称や、帳票上での集計単位は異なるので、表示マスタに設定することにより、プログラミングすること無しに、帳票出力を行うことができる。表示マスタの設定画面を図5に示す。

2) 帳票情報 (MDL_Reports_Info)

Oracle Applications のシステム管理の機能を使用し、表1に示している帳票名を値セットの摘要部にセットする。それぞれの帳票のパラメタは、付加フレックスフィールド*6に設定する。設定しているパラメタは、単月帳票ID、累計帳票ID、単月用起動プログラムID、累計用起動プログラムID等である。この値セットに登録している帳票名が、一般会計短期導入モデルの帳票出力メニューに表示するように Developer 2000 の Forms によってプログラミングされている。

3) パラメタ情報 (MDL_Parameter_Info)

一般会計短期導入モデルの帳票出力メニューの画面から入力された、帳票名、会社コード、対象年月、出力先等の情報をパラメタとして受け取るための手段として、値セットを使用する。この出力条件をもとに、Oracle の DB に対して、SQL文を発行し、出力対象データを格納する中間テーブルを作成する。

4) プリント情報 (MDL_Printer_Info)

一般会計短期導入モデルの帳票出力メニューの画面から入力された帳票の出力先の情報は、値セットで管理するように工夫している。値セットの摘要部に、Reports で印刷する場合に使用する「FASET EXT PRINTER」、SVF*7で印刷する場合に使用する「SVF」、「発行のみ」を設定する。「発行のみ」で出力すると、ブラウザが起動し、画面上で、出力内容を確認することができる。大量ページを印刷せずに内容を確認したい場合に使用する。それぞれの付加フレックスフィールドには、Reports が SVF のどちらで出力するのか判断するための帳票の区分、

プリンタの IP アドレス、プリンタ名、縦横のサイズを指定する出力形式等のパラメータを設定するように工夫した。これらの情報と作成した中間テーブルのデータを使用し、帳票の出力を行なうことを可能にする。

5) UNIX プリンタ情報

UNIX プリンタから帳票を出力するためには、A 4 の横型帳票出力用に P 2 A 4 TT (high 66 width 180)、A 4 縦型帳票出力用に P 2 A 4 YY (high 70 width 124) という名前のプリンタを設定する必要がある。この P 2 A 4 YY、P 2 A 4 TT のプリンタに出力するために、Oracle Applications 側ではシステム管理でプリンタ、プリンタのタイプ、形式、ドライバを設定しなければならない。FaSet シリーズでは、それぞれ、プリンタは、「P 2 A 4 YY」、「P 2 A 4 TT」、タイプは「MDLPrinter」、形式は「A 4 横」、「A 4 縦」ドライバ名は、「FASETEXTdriverYY」、「FASETEXTdriverTT」と設定する。設定方法については、Oracle Applications 標準機能のため、記述を省略する。

5.2 FaSet HR ファミリー

ここでは、FaSet HR ファミリーのうち、人事データセットアップ・ツールについて、技術的特徴と仕組みについて詳しく説明する。

5.2.1 人事データセットアップ・ツールの処理概要

人事データセットアップ・ツールの特徴としては、Oracle Applications のバージョンアップに伴い API の追加があった場合でも、基本的な仕組みは変えずに、セットアップエンジンとしての仕組みを提供していること、ユーザの任意レイアウトへの対応ができるようなツールとして構築していることである。処理概要を図 6 に示し、それぞれについて説明する。

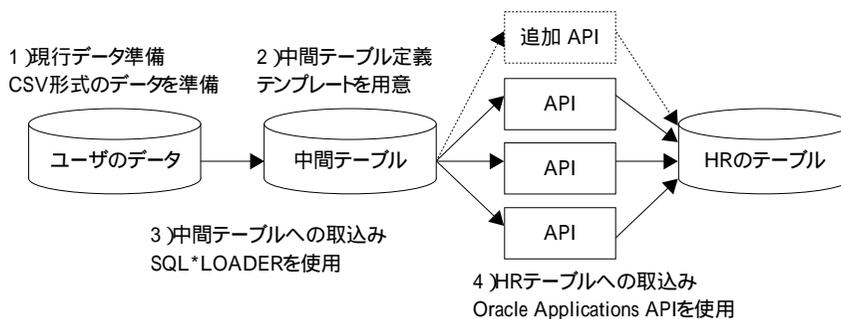


図 6 FaSet HR ファミリーにおける人事データセットアップ・ツールの処理概要

1) 現行データ準備

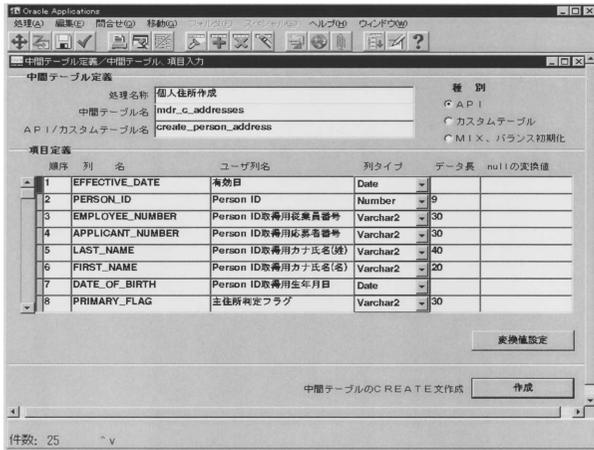
現行システムのデータを、CSV 形式に変換して準備する。順番は、中間テーブルの並び順が好ましい。なお、固定長のデータでも可である。住所情報作成の例を表 2 に示す。有効日、従業員番号、主住所判定フラグ、住所スタイル、開始日、住所種別、現住所 2、現住所 3、現住所コード、カナ住所 2、カナ住所 3 の 11 項目が並んでいる。

表 2 住所情報の現行データ例

19600401,1003,Y,JP,19600401,JP_C,木川東 1-3-7,,27123,初光カシ1-3-7,,
19600401,1004,Y,JP,19600401,JP_C,鈴木3-2-18,,27117,スズキ3-2-18,,
19930401,1005,Y,JP,19930401,JP_C,寺分 4 1 0,,14204,テラフソ410,,

2) 中間テーブル定義

中間テーブルの定義を行う。中間テーブルは、API と列名をほとんど同じに設定する必要があり、API の構造を理解していないと作成できないので、テンプレートを用意している。住所情報の中間テーブル「mdr_c_address」の定義画面を図7に示す。API が追加された場合は、新規に中間テーブルの設定を行う。



- 処理名称 値セットから入力(固定)
- 中間テーブル名 同上
- API カスタムテーブル名 同上
- 種類 テーブルの種類をラジオボタンで選択する
- 順序 テーブル項目の順番
- 列名 テーブルの列名
- ユーザ列名 テーブルの列名の詳細
- 列タイプ 項目の型を指定
- データ長 サイズを指定
- NULL の変換値 変換値を指定

図 7 中間テーブルの定義

3) 中間テーブルへの取込み

準備した現行データを入力ファイルとして、SQL * LOADER を用いて、中間テーブルにデータを格納する。コントロールファイルは、内部的に作成する仕組みになっているので、ユーザで準備する必要はない。作成されるコントロールファイルの例を図8に示す。

```
LOAD DATA
characterset ja16sjis
INFILE '/usr1/appl107prod/mdr/out/faset01.dat'
BADFILE '/usr1/appl107prod/mdr/out/faset01.bad'
replace
INTO TABLE mdr_c_addresses
FIELDS TERMINATED BY ',' OPTIONALLY ENCLOSED BY ''
(mdr$_iko_record_no SEQUENCE(MAX,1),mdr$_iko_edaban CONSTANT 1,EFFECTIVE_DATE DATE
'YYYYMMDD',EMPLOYEE_NUMBER,PRIMARY_FLAG ,STYLE,DATE_FROMDATE'YYYYMMDD',ADDRESS_TYPE,ADDRESS_LINE2,ADDRESS_LINE3,TOWI
Y,REGION_2,REGION_3)
```

図 8 作成されたコントロールファイルの例

4) HR テーブルへの取込

中間テーブルのデータを元に、API を起動し、Oracle Applications のテーブルにデータを格納する。個人住所作成の場合は、API である peaddbpi.pkh のファイルの hr_person_address_api というパッケージを使用して、Oracle Applications のテーブルにデータを格納する。

この人事データセットアップ・ツールを用いることによって、既存システムのデータを Oracle Applications に取りこむことを可能にし、データ移行の工数削減に大きく貢献する。

6. FaSet シリーズの導入効果

FaSet シリーズを導入することによって、Oracle Applications 適用時にどの開発工程において効果を上げているかを表 3 に示す。なお、各開発工程名は、AIM[®] に準拠して記載した。

表 3 FaSet シリーズの導入効果

FaSet 商品 \ 開発工程	要件定義	オペレーション分析	ソリューション設計	構築	移行/稼働
一般会計短期導入モデル					
統合会計短期導入モデル					
FaSet FA 固定資産管理システム					
FaSet FA cip 建設仮勘定精算システム					
人事データセットアップ・ツール					
人事インタフェース・ツール					
人事情報検索ツール					
インプリメンテーション・ツール					
人事・給与短期構築モデル					

：検討時間の短縮 ：CRP 準備工数の削減 ：インプリメンテーション工数の削減
 ：開発・テスト工数削減 ：導入移行の削減

要件定義フェーズでは、ビジネスプロセスの分析を行い、ユーザのビジネスモデルを作成するが、FaSet シリーズのビジネスモデルのテンプレートを使用することによって、特に、一般会計短期構築モデル、統合会計短期構築モデル、FaSet FA 固定資産管理システム、FaSet FA cip 建設仮勘定精算システム、人事・給与短期構築モデルは、検討時間の短縮が可能である。

オペレーション分析フェーズでは、FaSet シリーズの画面をプロトタイピングとして CRP をスムーズに行うことが可能であり、かつ、ギャップ部分のソリューションの比較、代替の検討を迅速に行うことができる。特にビジネスモデルのテンプレートである一般会計短期構築モデル、統合会計短期構築モデル、FaSet FA 固定資産管理システム、FaSet FA cip 建設仮勘定精算システム、人事・給与短期構築モデルでは、シナリオ作成、パラメタ設定等の CRP 準備工数が削減される。

ソリューション設計フェーズでは、ユーザの業務要件に合うように、Oracle Appli-

cations のインプリメンテーションを行なうが、FaSet FA 固定資産管理システムは Oracle Applications の FA よりインプリメンテーション内容が極端に少ないため、工数削減となる。人事管理システム系モジュールは、インプリメンテーション・ツールを使用することによってインプリメンテーション設定工数の時間が削減される。人事・給与短期構築モデルの場合も、既に給与支給項目、控除項目、計算ロジック等が組込まれているので、インプリメンテーション工数が大きく削減される。

構築フェーズでは、FaSet シリーズはユーザが業務で使用する機能を提供しているため、Oracle Applications 標準から開発するよりも、FaSet シリーズを使用した方が工数削減となる。また、一般会計短期構築モデル、統合会計短期構築モデル、FaSet FA 固定資産管理システム、FaSet FA cip 建設仮勘定精算システム、人事・給与短期構築モデルは、テスト済み実装モデルを提供しているため、テストの工数も削減される。

移行/稼働フェーズでは、統合会計システム系の導入は、全て追加インストールを CD ROM から短時間で行うことができる。また人事管理システム系では、人事データセットアップ・ツール、人事インタフェースツールを用いて、既存システムのデータの Oracle Applications 移行をサポートするので、工数は削減される。

また、保守については、法改訂があった場合、統合会計システム系、人事管理システム系のいずれのモジュールでも迅速に対応パッチを提供する体制を整えている（なお Oracle Applications のコアに関する部分については、オラクル社にて対応）また、FaSet の保守サービス・メニューとして、機能追加等のパッチ情報を、基本的には、3ヶ月に1回の割合で提供する。

7. おわりに

これまでは、Oracle Applications の統合会計システム系モジュールには FaSet FIN ファミリーを、人事管理システム系モジュールには FaSet HR ファミリーを推奨し、ユーザ適用を行ってきたが、ユーザが FaSet を短期導入のために使うのか、CRP の工数削減のために使うのか、あるいは開発テンプレートとして使うのかを、最短のインタビューで見極め適切なアプローチによりユーザ特性にあった適用を心がけたい。また、オラクル社との密接な連携のもと Oracle Applications の最新動向をいち早く把握し、国内ユーザのニーズに当面追いつくことができそうにない項目については、FaSet シリーズとして積極的な強化を図っていきたい。

すでに採用いただいたユーザの皆様には謝意を述べるとともに、忌憚なき意見を頂戴し、更に洗練された FaSet シリーズを提供していきたい。

-
- * 1 Oracle Applications 標準画面から、設定項目を入力するだけで、プログラミングすること無しに、Oracle Applications 導入企業に合った統合会計体系や人事管理体系を実現する。
 - * 2 キーフレックスフィールドは、Oracle Applications 標準で装備されている柔軟性のあるデータフィールドであるが、会計キーフレックスフィールドは統合会計系のデータフィールドのことである。具体的には総勘定元帳に残高を保持する単位である。投入されたデータは、この組合せが一致する単位で残高としてサマリされる。

- * 3 フレックスフィールド内の一つのサブフィールド .フレックスフィールドを設定するときに、例えば、会社コード、勘定科目、部門等、個々の項目の意味をサブフィールドに定義する。
- * 4 Conference Room Pilot : Oracle Applications に対して、できるだけユーザの業務要件に合わせた形でインプリメンテーションを行い、ユーザと議論を行いながらインプリメンテーションのみで行う部分と、追加開発する部分を明確にすること。CRP はユーザの業務要件整理に大きく貢献する。
- * 5 値セットは、セグメントの長さ、ゼロ埋め、右揃え、英数字、値のセキュリティなどのセグメント属性を決定するが、その値セットの名称
- * 6 Oracle Applications の管理項目以外の項目を、ユーザで拡張できるフィールド。名前を持たない1文字のフィールドとしてウィンドウに表示される
- * 7 Super Visual Formade の略で、翼システム(株)の帳票作成支援ツールである。SVF は Oracle Applications の CAI 商品となっている
- * 8 Applications Implementation Method オラクル社標準の企画・開発・導入メソッドロジ

参考文献 [1] 八谷賢次・小路龍彦. ERP 成功への方程式 Oracle Applications, リックテレコム, 1998年8月, pp.98~144.

執筆者紹介 北方裕人 (Hiroto Kitakata)
1964年生。1989年鹿児島大学大学院工学研究科修了。
同年日本ユニシス入社。客先の業務システムパッケージの適用やソフトウェアの保守に従事。現在、クロスインダストリサービス部 ERP ソリューション二室に所属。